

カリキュラムづくりと総合学習部会

I 研究主題 豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成 ～総合学習の可能性を今、社会へ発信しよう～

II 主題設定の理由

「総合的な学習の時間は、各学校で目標や内容を設定する。もちろん教科書もない。このことは一見難しさや大変さを感じさせる。しかし、地域や学校、児童の実態、特色に応じた各学校独自の学習活動を展開することができる。カリキュラムを編成し、実施する。そして、それを見直し、改善していく。まさにカリキュラム・マネジメントの力が必要となってくる。総合的な学習の時間に取り組む教師は、自らの足で教材を開発し、自らの手と頭で指導計画を作成し、授業を生み出していくのである。これからの時代に求められる教師の姿が、そこにはある。」(今、もとめられる力を高める総合的な学習の時間の展開文部科学省 H 22)

改訂学習指導要領でも、「総合的な学習の時間」の必要性・重要性が再確認され、教育課程上に明確に位置付けられることとなった。知識基盤社会やグローバル社会においては、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などの実社会や実生活で活用できる能力を身につけさせるために、総合的な学習の時間を探究的な学習とすることが求められている。

その根底には、学校外から、知識基盤社会化・グローバル化などの社会変化や企業での即戦力に対する需要の高まりなどの現状がある。しかし、このような中であっても、私たちは、子どもたちに「本当につけさせたい学力」とは何かを改めて問い直し、自主創造的な教育実践を積み重ねることで、子どもたちの学びたいという意欲と「ゆたかな学び」を保障していく必要がある。

学びやすい、そして発展性のある、質の高いカリキュラムや実践を創造していくことは、私たち教職員の使命である。子どもの実態をふまえ、教材の活用や授業の展開を徹底的に検討することに加え、もし子どもがつまづき、理解が十分でないところがあるとなれば、カリキュラムや授業プランを工夫して、その内容や方法を創りかえる必要がある。すべての子どもたちが、学び合いの中で、「学びの意欲」を喚起できる「わかる授業」「楽しい授業」を創造するために、日々目の前にいる子どもたちの実状に合わせたカリキュラムを追究することが求められている。

自ら学ぶ視点や展望が自覚できる評価へ、多様な子どもたちが学び合える「場」づくり、自主的な活動を通じた人権学習など、子どもたちの「ゆたかな学び」を保障するカリキュラムづくりに取り組んでいくことが必要である。

また、子どもたちの心を豊かに育てるために、仲間の実践に学びながら、常に子どもたちの実態、地域の実態等を考慮し工夫を施し教育課程を編成していきたいと考える。

さらに、子どもたちの学びが豊かなものとなるようにするために、子どもたちの学びの様子に柔軟に対応できるよう教育課程にゆとりを持たせたい。

そこで、本部会のテーマを「豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成」として、研究実践に取り組んでいくこととした。

III 研究の内容

- ・総合的な学習の時間や教科に関わってのカリキュラムづくり
- ・個人的な実践の報告

- ・新教育課程に向けての情報交換

IV 研究の経過

- 5月 6日 (金) 研究組織・研究の方向性(研究テーマ, 研究計画, 具体的方法)
- 5月18日 (水) 研究計画確認 学習会
- 6月 1日 (水) 個人研究・実践の発表 (井尻小 岡先生)
- 6月22日 (水) 個人研究・実践の発表 (岩手小 小野先生)
- 8月 1日 (月) 夏季学習会 授業案検討
- 8月31日 (水) 統一授業研「おぼこさんを育てよう」(牧一小 新海先生)
- 9月28日 (水) 秋季教研 レポーターの選出・個人研究・実践の発表 (奥野田小山縣先生)
- 11月30日 (水) 県教研の報告 個人研究・実践の発表 (奥野田小 鈴木先生)
- 1月25日 (水) 個人研究・実践の発表 (勝沼小 古屋先生)
- 2月15日 (水) 研究のまとめ・個人研究・実践の発表

V 研究の成果と課題

- ・牧丘一小の3年生が「総合的な学習の時間をみんなで楽しもう」として、ウェブから課題づくり, 図書館・インターネット・博物館・地域の方から学び, 模造紙にまとめ上げる活動から多くのことを学習できた。
- ・「おぼこさんを育てよう」の総合的な学習の時間の学習と, 3年生の理科「虫を育てよう」とを関連づけながら学習を進める事ができた。
- ・地域の歴史とカイコを結びつけ, さらに地域のカイコ飼育者をゲストティーチャーに迎える事により, 子どもたちの学習意欲を高める事ができた。
- ・地域教材からつくりあげた総合学習の授業を提案していただき, たいへん参考になった。児童の身近にある物, 身近にいる人にやはり興味・関心を強くすると思う。
- ・新海先生の実践から, 地域に関わる学習材(カイコ)について, 地域の方から学び, 学んだことを地域に発信することで, 児童は, 地域の人と, 過去と現在に関わることができることが分かった。
- ・他校の総合的な学習の実践の様子を知ることができた。
- ・牧一小の総合的な学習を中心として, 他の先生の実践発表もたいへん参考になり, 研究が深まった。
- ・各学校からなされた実践報告を還流することによって, 総合的な学習の時間における様々なアプローチの仕方や指導上の工夫などを知ることができ, 自校での実践に役立てることができた。
- ・今日的な教育課題についての資料が提示されたことによって, 日常の教育活動への意識や感心を高めることができた。
- ・研究会ではいくつかの教育課題について話し合いができ, 有意義だった。
- ・部会構成員の増を望みます。特に学級担任レベルの先生方に参加していただけるとよいです。
- ・県教研へのアプローチの見直しが必要か。甲府と同じように, 授業ではなくカリキュラムの工夫や教育課程編成に関する報告や提案にシフトしていくことも考えられる。

(部長 鈴木 英仁)